

令和3年度 さいたま市立泰平小学校 学校関係者評価書

さいたま市立泰平小学校

学校関係者評価委員長 阿部 純一



1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 8名
- (2) 実施回数 2回（うち2回目は資料配付のみ）

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) 学習について

- ・ICTの積極的な活用により学校教育の内容が大きく変わってきていると感じる。不登校児童に対しても、オンライン授業に参加できるような工夫を今後も講じてほしい。
- ・高齢者との自然な交流が図れ、人との関わりを小さい頃から身に付けられる環境がある。
- ・素直な児童が多いが、もう少し積極的に何でも取り組めるとさらによい。
- ・素直で明るく、友だちを大切にす気持ち、姿勢、態度が見られるのは、学校の方針や実践が行き届いている表れと感じる。

(2) 児童のあいさつについて

- ・あいさつ運動を続けてほしい。あいさつ運動後の旗振り当番へのお礼の場をもち続けてほしい。
- ・登下校時の旗振り当番の保護者や正門前のPTA会長、交通指導員に対して進んであいさつができていない児童が見られる。4者の結果にばらつきがあるのは、あいさつの捉え方に差があることも考えられるが、学校では校外でもあいさつをするよう心掛けさせてほしい。校外でのあいさつは、学校だけでなく、特に家庭での取組も必要である。

(3) 生徒指導対応について

- ・教職員と児童や保護者とのいじめの捉え方に差がある。これからも、いじめに対する相談窓口を広げ、家庭の声も聴きながら対応してほしい。
- ・生徒指導対応としては、いじめの重大事案は至っていないとのことだが、いじめ認知後は組織的に、迅速且つ継続して対応してもらいたい。
- ・人間関係が希薄化している現状を考えると、より多くの人と関わる機会を与えてほしい。

(4) 感染症拡大防止の取組について

- ・学級閉鎖が出ているが、教職員の健康も含めて、今後感染症対策に取り組んでいっていただきたい。
- ・市の感染症教育活動実施マニュアルに則って、教職員で共通理解を図りながら感染症対策に取り組んでほしい。
- ・実施できた取組についてはコロナが収束したら終わりではなく、今後もよりよいものになるよう模索してほしい。

(5) 今後の教育活動について

- ・校長をはじめ先生方がよい学校にしようと努力されている。
- ・人事の入替えにより、デイサービスとの連携に関する取組が引き継がれているかが懸念される。学校内での確実な引継ぎとともに、学校職員とデイサービス職員との交流の場があればなおよい。
- ・体験活動を取り入れ、豊かな人間性をはぐくんでほしい。
- ・地域関係機関として学校と連携し、情報共有を図りながら、ともに児童を見守って支援していきたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 集計結果については、紙媒体及び学校ホームページで公表する。来年度の教育活動については、感染症対策を徹底し、より教育効果が高まる取組になるよう工夫改善を図る。
- (2) いじめ防止対策については、教職員と児童や保護者とのいじめの認識の違いがあることを自覚しなければならない。今後も、初期対応を大切にしながら、指導後の見届けを確実にしていきたい。また、個人面談やにこにこ相談日、懇談会の機会を貴重な児童・保護者理解の場と捉え、適切に設定していきたい。さらに、校内でも、特別支援教育コーディネーターや教育相談主任を中心に、SC・SSW・さわやか相談員と連携し組織的に対応するとともに、必要に応じて特別支援ネットワーク連携協議会の場を活用し、より専門的な見地からのアドバイスを日々の指導に生かしていけるようにする。

さいたま市立泰平小学校長 豊田 由香

